

## 進路指導関係セミナーの取組

大学入試センター管理部情報課進学指導専門官 中村 裕行

### 1. はじめに

大学入試センター（以下「センター」という）は、ハートシステムや大学ガイダンスセミナーなどの大学情報提供事業を行っている。情報提供自体は、共通第一次学力試験の時代から行っていたが、本格的に取り組むようになったのは今から15年ほど前である。

センターは、平成13年4月に独立行政法人となり、今年度で第1期中期目標期間が終了する。昨年度に行われた独立行政法人の業務見直しの中で、大学情報提供事業についても見直しが指摘された。この機会に、大学情報提供事業、特に進路指導関係セミナーについて、拡充の経緯や取組の推移等について紹介し、合わせて今後の課題等についても考えているところを述べてみたい。

### 2. 大学情報提供事業開始の経緯

#### (1) 国立学校設置法の一部改正

昭和60年の臨時教育審議会「第一次答申」で、「大学入試センターに、大学進学希望者に適切な進路指導を行う

ための諸活動、すなわち大学と高等学校間の情報交換のための仲介機能を付与することを考慮すべきであること」が提言された。この背景には、大学選抜時における偏差値情報への過度な依存や大学情報の少なさや偏りという問題点等が指摘されていたことがある。

昭和63年2月には、文部省（当時）の大学入試改革協議会がまとめた報告で、「大学入試センターは、偏差値偏重の進学指導の改善に資するため、高等学校や受験生などに適切な情報を提供する必要があること」が提言された。

これらを背景として、同年5月国立学校設置法の一部が改正され、センターの新たな業務として「大学情報提供」が追加された。

#### (2) 大学情報提供事業に関する調査検討委員会

平成元年、センターは大学ガイダンスセミナーを開始するとともに、大学情報提供事業をどのように構築するかについて、大学・高等学校関係者で構

成する「大学情報提供事業に関する調査検討委員会」を設け、基本的な考え方の検討を開始した。平成2年3月に出された最終報告の概略は次のとおりである。

#### ○提供する情報内容

- ア) 教育研究内容
- イ) 学生生活
- ウ) 大学卒業後の進路
- エ) 入学選抜方法
- オ) 大学に関する総合的な情報等

#### ○提供方法

- ア) 対象に応じた提供
- イ) 有機的な組み合わせによる事業の実施
- ウ) 大学と高等学校との意見交換
- エ) 印刷媒体
- オ) ニューメディアの活用

#### ○センターにおける具体的事業

- ア) ハートシステムによる大学進学案内
- イ) ガイドブックの作成
- ウ) 大学と高等学校との意見交換会の開催
- エ) ラジオ・テレビ等を利用した相談
- オ) 大学情報に関するレファレンスサービス
- カ) 大学公開の支援等

### 3. 大学情報提供事業の概要

このような検討を経て、平成2年6

月に進学情報課（現在の情報課の前身）を設置し、大学情報提供事業を本格的に開始した。

#### (1) 事業の目的

この事業は、高等学校における進路指導や大学進学志望者の進路選択の改善に資する適切な情報の提供を主な目的としている。

#### (2) 各種事業

表1 (p34)は大学情報提供事業とその実施年度を示したものである。

事業は進路指導関係セミナーと広報・出版物等に大きく分かれる。広報・出版物等の事業は個々人のニーズに応じる情報提供である。ここには、センターが以前から行ってきたガイドブックの発行やハートシステムの運用等が含まれる。ガイドブックは発行の都度各高等学校に送付し、ハートシステムには学校、自宅等からアクセスが可能である。一方、進路指導関係セミナーは、参加者に対して情報提供することに加えて、参加者相互のコミュニケーションを図る場としても位置付けている。

### 4. 進路指導関係セミナーの実施状況

#### (1) 大学ガイダンスセミナー

このセミナーは大学関係者と高等学校関係者を対象としたものである。大

表1 大学情報提供事業一覧

年度	進路指導関係講座・セミナー	広報・出版物等
昭和54		国公立大学ガイドブック
昭和55		
昭和56		
昭和57		
昭和58		
昭和59		
昭和60		
昭和61		国公立大学 ガイドブック 大学案内編 国公立大学ガイドブック 大学進学情報一覧 ハートシステム 進学情報サービス室 新ハートシステム
昭和62		
昭和63		
平成元	大学ガイダンスセミナー 大学入学広報セミナー 学問探検講座 学問紹介セミナー ゆめ講座	
平成2		
平成3		
平成4		
平成5		
平成6		
平成7		
平成8		
平成9		
平成10		
平成11		
平成12		
平成13		
平成14		
平成15		
平成16		
平成17		

学側は教育研究内容の現状と展望を、高等学校側は教育の現状と問題点等をそれぞれ持ち寄り、講演や意見交換を実施した。

①開催地区及び開催数の推移

表2 (p35)は大学ガイダンスセミナーの開催地区と参加者数を示したもの

である。

平成元年度に1地区1会場が始まり、平成11年度から平成13年度は7地区10会場で実施したが、平成17年度は5地区6会場での実施となっている。

②実施体制

表2 大学ガイダンスセミナー開催数・参加者数の推移

年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
合計参加者数	157	179	543	778	854	955	956	1,190	1,179
開催数	1	1	3	5	6	7	8	9	9
平均参加者数	157	179	181	156	142	136	120	132	131

年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
合計参加者数	1,124	1,211	1,205	1,178	1,011	986	997	985
開催数	9	10	10	10	8	8	7	6
平均参加者数	125	121	121	118	126	123	142	164

平成17年度内訳

開催地区	開催地	参加者数
北海道地区	北海道	134
東北地区	北東北	92
	南東北	112
関東地区	千葉県	333
北信越地区	新潟県	143
九州地区	鹿児島県	171

実施に当たっては、全地区とも大学関係者と高等学校関係者で実施委員会(自主運営組織)を組織している。同委員会において、開催地区のニーズに合うテーマの検討を行った。同委員会の場も高等学校・大学間の有効な意見交換の場となっている。

③意見交換・講演テーマの変遷

表3 (p36)に長崎県でのセミナーのテーマの変遷を例示した。

当初は大学の教育内容に関して大学側からの情報発信に熱心であった。次第に高等学校からの視点も加わり、高大連携や高大接続といった高大相互に関わるテーマへと発展した。平成17年度の各地区のテーマを見ても高大相互

に関わるものが多い。(表4 (p37))

④成果

このセミナーの実施によって、高等学校教員の大学理解、大学側の高等学校教育の理解が進むとともに、各大学の教育研究内容の公開につながった。

平成11年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の中に、高等学校関係者と大学関係者の相互理解の場として「連絡協議会」が例示されており、本セミナーはこの役割も果たしていると言える。

(2) 大学入学広報セミナー

①開催の趣旨

表3 大学ガイダンスセミナー テーマ一覧 (長崎県)

年度	講演テーマ	意見交換テーマ
平成4年度	○医学部は、今 ○英語教育の現代的課題	○大学の教育内容について
平成5年度	○教育学部の現状と今後の展望 ○境界領域の学問の楽しみ方	○大学教育の現状及び将来計画について
平成6年度	○21世紀における国際人の養成—私の海外留学教員外交官時代の20年— ○大学入試センター研究開発部の紹介 試験問題による学力識別—平成4年度センター試験を中心に—	○社会・大学・高校から望まれる学生
平成7年度	○時代に応える社会福祉教育 ○大学及び学部を選択理由と入学後の意識—学部間の相互比較—	○大学の教育内容について
平成8年度	○21世紀のライフスタイルと環境を考える ○21世紀を担う経済人の育成—今後の社会動向に応じたパラダイムの構築に向けて—	○大学の教育内容について
平成9年度	○工学教育を取り巻く社会環境と工学部の今 ○21世紀の高校現場の在り方を考える—青年期危機の規定要因—	○変わりゆく大学と学生
平成10年度	○大学教育における文理融合の必要性—環境科学部の試みに関連して— ○地域の中の大学	○大学の情報発信—その内容と方法—
平成11年度	○大学入学者選抜の多様化について—九州大学のAO選抜—	○新しい時代における大学教育—大学の将来像と入試制度—
平成12年度	○思春期の子どものサポートについて	○高大連携を目指して
平成13年度	○大学生の学力と高校生の学力:どこがどうちがうのか	○高大連携の具体像
平成14年度	○大学とは何か?	○中等・高等教育の活性化
平成15年度	○『「学ぶ意欲」を引き出す授業には何が必要か?』	○高校が目指す学生像と大学が求める学生像
平成16年度	○日本の大学生の基礎学力 (日本語・英語) 構造と支援方策	○『高大連携の展開と課題』

現在のように大学が積極的に広報を行う以前の大学入学広報は、志願者増を目指した入試情報が中心であり、活

動状況も十分とは言えなかった。そこで、国公私立大学の入学広報担当者を対象として、平成2年度から平成14年

表4 平成17年度 大学ガイダンスセミナー テーマ一覧

開催地	講演テーマ	意見交換テーマ (シンポジウム・パネルディスカッション・分科会)
北海道地区	○北海道の高校教育と大学教育はこれからどうあるべきか	○北海道の高校教育と大学教育はこれからどうあるべきか—学力低下問題を越えて— (I) 中高で進む、学力低下、学ぶ意欲の喪失 (II) これからの北海道の教育に必要な視点とは何か
北東北地区	○大学が求める学生像—入試のあるべき姿—	○(I) 大学が求める学生像—一般選抜の在り方— (II) 大学が求める学生像—特別選抜の在り方— (III) 大学が求める学生像—高校教育と大学教育の接続—
南東北地区	○若者の職業選択と適性	○大学における就職支援活動
新潟県	○「知的インフラ」づくりの重要性	○高等学校教育と大学教育の接続—学びの姿勢を接続する—
千葉県	○未来ロボットの最新事情	○高校教育と大学教育の接点を求めて
鹿児島県	○幕末薩摩の世界性—教育と外交の視点から—	○高校生・大学生の学習姿勢及び職業観の現状とこれからの教育指導の在り方

\*千葉県においては、この他、高校生を対象とするプログラムを行った。

度まで大学入学広報セミナーを開催した。目的は、情報提供の重要性を認識してもらうこととその質的な向上を図ることである。

### ②内容と観点

シンポジウムを中心に講演を加えた形で実施した。特にシンポジウムでは、大学と高等学校の連携を情報発信と受信という観点から整理し、社会ニーズの変化、高等学校の現状、大学を取り巻く環境の変化を把握することに重点を置いた。テーマとして、「入試広報から入学広報へ」、「選抜から選択へ」、「情報過多の中の情報不足」等を設定した。

その上で、広報の効果的な在り方や教育的役割等について議論を深めた。

### (3) 高校生を対象とした講座・セミナー

大学進学志望者である高校生を対象として、学問探検講座(平成9・10年度)、学問紹介セミナー(平成11・12年度)、ゆめ講座(平成15・16年度)を実施した。

各講座・セミナーに共通するのは、学問について考える機会を高校生に提供している点である。この学問からのアプローチは、高校生に大学進学の目的を明確化させるきっかけになると

もに、主体的な進路選択にもつながるものである。

講師の講演と質疑応答を含めた意見交換という基本的な構成は同じである。

それぞれの講座・セミナーの特徴について紹介する。

①学問探検講座

本講座は2年間とも広島県で開催した。年間4回の講座で、開催は第2、第4土曜日を中心とし、交通至便な場所に会場を確保して参加しやすい環境づくりをした。

当時広島県にあったセンターの進学情報サービス室の情報相談員が広報活動で各高等学校へ出向き、参加申込の窓口となって高等学校とのパイプ役を果たした。

講座では各回、同一名称学部で学科の異なる大学教員2名が講演し、その講師の研究室に所属する学生が補助者として参加した。

②学問紹介セミナー

本セミナーは2年間とも福岡県で開催した。エルネットを利用し、メイン会場以外へ配信することで多くの参加を可能とした。

1回の開催につき2講演とし、文系と理系を別日程とした。内容については高等学校側から要望を聞き、関心の高い学問領域とした。

講師との意見交換に、高校生と大学

生がパネリストとして参加し、フロア全体の意見交換が広がる工夫をした。

③ゆめ講座

4年間で2種類の高校生向け講座・セミナーの企画・運営をした結果から、更に検討を重ね、「ゆめ講座」を企画した。

年間1回（東西各1地区）開催で、幅広い分野から講師を選定した。全講師に、講師が今携わっている仕事について、あるいは講師自身の夢を実現してきた足跡について率直に語ってもらった。

また、東日本地区では開催地内の高校生から希望者を募り、講師への事前取材を行った。当日は、講師提言に先立ち、高校生自身の言葉で、事前取材した講師の印象や姿を紹介した。この講師紹介によって、講師からの提言に対する参加者の興味関心を一層高める効果があったと考えられる。そこで高まった興味関心を講師への質問用紙に記入してもらい、後半の質疑応答につなげた。詳細は資料1(p39)のとおりである。

④成果

高校生向け講座・セミナーの実施は「学問とは何か」を知り、学びのおもしろさや豊かさの一端を味わう機会の提供となった。

アンケートの回答では、「内容が良かった」77%、「次年度以降の開催の

資料1 「ゆめ講座」実施の概要

		西日本地区	東日本地区		
平成十六年実施	大学	愛媛大学	福井大学		
	日時	平成16年10月10日(日) 13:30~16:30	平成16年11月6日(土) 13:20~16:30		
	内容	○講師提言 ○討論・質疑応答	○高校生による講師紹介 ○講師提言 ○討論・質疑応答		
	講師等	増村紀一郎 東京藝術大学教授 若槻 壮市 高エネルギー加速器研究機構教授 浮川 初子 (株)ジャストシステム代表取締役専務 荒川 正昭 大学入試センター理事長	宮田 亮平 東京藝術大学副学長 小磯 晴代 高エネルギー加速器研究機構教授 藤林 康久 福井大学教授 荒川 正昭 大学入試センター理事長		
	討論司会	早川 信夫 NHK解説委員	早川 信夫 NHK解説委員		
	参加者数	内訳		内訳	
		高校生	163名	高校生	203名
		中学生	8名	中学生	0名
		教師	12名	教師	9名
		一般(保護者含む)	29名	一般(保護者含む)	13名
合計	212名	合計	225名		
備考	*同時期に愛媛大学で「まなびピア」が開催されていた。				
平成十五年実施	大学	島根大学	弘前大学		
	日時	平成15年11月1日(土) 13:30~16:30	平成15年10月11日(土) 13:20~16:30		
	内容	○講師提言 ○討論・質疑応答	○高校生による講師紹介 ○講師提言 ○討論・質疑応答		
	講師等	小川 三夫 鶴工舎舎主 廣瀬 通孝 東京大学教授 的川 泰宣 宇宙航空研究開発機構教授 本間恵美子 八雲立つ風土記の丘副所長 丸山 工作 大学入試センター理事長	小川 三夫 鶴工舎舎主 藤原 正彦 お茶の水女子大学教授 油井由香利 宇宙航空研究開発機構研究員 カーペンター、ビクター・リー 弘前大学教授 丸山 工作 大学入試センター理事長		
	討論司会	早川 信夫 NHK解説委員	早川 信夫 NHK解説委員		
	参加者数	内訳		内訳	
		高校生・中学生	37名	高校生・中学生	125名
		保護者・教師等	79名	保護者・教師等	55名
		合計	116名	合計	180名

必要性」62%であった。「自分の知らない世界にふれて良かった」、「学問は楽しいものと分かって、安心して好きな進路を選ぶことができる」などの感想があった。高校生の進路選択の一助となったものとする。

また高等学校関係者と大学関係者にとって、高大連携の在り方や高校生への直接の働きかけの有用性を再認識できたのではないかと考える。

## 5. 大学の情報提供の変化

平成11年の中教審答申を受け、大学は高大連携への動きを活発化させた。大学教員による高等学校での学校紹介や講義等の実施校数(全国)は、平成11年度中の254校から平成15年度中の1654校まで増加した(\*1)。

ここでは大学の情報提供の変化について述べてみたい。

### (1) インターネット普及による変化

進学情報課が設置された平成2年と現在では、情報の伝達・入手手段が大きく変化し、中でもインターネット普及による変化が大きい。

高校生の周辺環境に限定しても、平成16年3月末現在で高等学校のインターネット接続率は公立高校で100%、そのうち高速回線接続率88.1%である(\*2)。

また、世の中の出来事を知ったり、

情報を得たりするために普段行っていることとして「インターネットを利用する」高校生は、27%となっている(\*3)。

### (2) 大学の広報活動の変化

#### ① 情報発信の変化

かつては大学からの情報は高等学校経由で高校生が知る割合が多かった。しかし、インターネット普及により直接高校生が情報を入手できるようになった。大学のホームページも、高校生がアクセスすることを前提とした構成になっている。

大学のホームページ開設状況は、97%である(\*4)。

また、高校生が大学の説明や模擬授業などを体験できるオープンキャンパスの実施状況は、95%である(\*5)。

#### ② 高等学校との関わり

国立大学(83校)における「大学ガイダンスセミナーと同種の取組」の実施状況を見ると、4割強の36大学が行っていると回答し、単独での実施が27校、複数の大学での共同実施が15校となっている(なお、両方実施が6校)。内容としては、入試説明会や入試説明会と懇談会との組合せが多い。また、高校生や保護者を対象とした取組も見られる(平成17年8月末現在)。

こうした動きは高大相互に有益な協議の場を高等学校関係者と大学関係者

が求めているからであろう。

## 6. 進路指導関係セミナーの課題と今後の取組の方向

センターの進路指導関係セミナーは、高等学校と大学関係者間の情報交換や相互理解のためにこれまで大きな役割を果たしてきた。しかしながら、大半の大学でオープンキャンパスを行い、また高等学校関係者との協議の場を持つ大学も多くなりつつあるなど大学での取組が進んできている。その一方で、独自の協議の場を持たない大学が多いことも事実である。

このため、今後の進路指導関係セミナーについては、各大学の独自の取組を促したり、その内容の改善につながったりするものであることが適当であると思われる。

このようなことから、平成17年度に行った大学ガイダンスセミナーにおいては、6会場中の1会場において、高等学校や大学関係者向けの従来のプログラムに加えて、高校生や保護者を対象として単なる個別大学紹介にとどまらないプログラムを行うという工夫を行った。以下にその概要を紹介したい。

### (1) 高校生対象プログラムの導入

平成17年度、千葉県内大学ガイダンスセミナーで新しい取組を行った。こ

れまで大学関係者と高等学校関係者を対象としていたが、これに高校生が参加できるプログラムを加えた。

この結果、今回の参加者数は333名で、このうち高校生が198名(1年90名、2年35名、3年73名)、保護者が32名、大学や高等学校等の関係者は103名であった。

### (2) 高校生への広報活動

事前広報として、チラシの作成・配布及びホームページへの掲載を行った。

チラシは、高等学校に送付した他、関係大学に資料請求のあった高校生にも送付し、案内した。さらに、千葉県に隣接する東京区部の図書館にも置き、広く目に触れるようにした。

ホームページは、関係大学のホームページ及びセンターのハートシステムで取り上げた。

開催を知った情報源は、高等学校からの情報(含チラシ)69%、大学からのダイレクトメール23%、ホームページ6%、その他として図書館のチラシや口頭での情報等7%であった(複数回答可)。

高校生の参加者を高等学校の所在地別で見ると、千葉県182名、隣接する東京都8名、茨城県、埼玉県から各1名、山梨県、新潟県からも各1名、不明4名であった。

(3) 選択参加型の企画内容

高校生が自分の興味関心に合わせて模擬授業に参加したり、個別大学進学相談で話を聞いたりできる形式とした。模擬授業や進学相談コーナーで主体的に情報を収集してもらう企画であ

る。センターでは、学びの相談コーナーを設け、模擬授業講師や現役大学生との質疑応答の機会を提供した。このセミナーの概要は資料2のとおりである。

資料2 平成17年度千葉県内大学ガイダンスセミナーの概要

日 時	平成17年8月26日(金) 10:00~16:30	
場 所	千葉工業大学津田沼キャンパス	
主 催	千葉県内大学ガイダンスセミナー実施委員会 独立行政法人大学入試センター	
後 援	千葉県教育委員会 習志野市教育委員会 千葉県高等学校長協会	
プログラム		
9:30~10:00	受付	
10:00~10:20	開会挨拶	
10:30~12:00	テーマ 「未来ロボットの最新事情」 [特別講演] 講 師 古田貴之 千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター所長	
13:00~13:50	テーマ 「現在と将来をつなぐ経済： 動学的意志決定と金融市場」 [模擬授業①] 講 師 和田良子 敬愛大学助教授	テーマ 「東京湾の生態系と環境教育」 講 師 風呂田利夫 東邦大学教授
14:00~14:50	テーマ 「夢と睡眠の健康心理学」 [模擬授業②] 講 師 松田英子 江戸川大学助教授	テーマ 「コンピュータと数学」 講 師 田澤義彦 東京電機大学教授
15:00~16:30	テーマ 「高校教育と大学教育の接点を求めて」 [シンポジウム] シンポジスト 長谷川浩 淑徳大学教授 林 亜夫 明海大学教授 田中三郎 千葉県立佐原高等学校教諭 山岸良二 東邦大学付属東邦高等学校教諭 司 会 安田 浩 千葉大学教授	
○参加大学による個別大学進学相談 13:00~16:30 模擬授業・シンポジウムに平行して、進学相談ブースを設け、高校生及び保護者が自由にブースで質問をしたり、大学から説明を受けた。 参加大学：千葉大学、愛国学園大学、江戸川大学、川村学園女子大学、神田外語大学、敬愛大学、淑徳大学、順天堂大学、城西国際大学、聖徳大学、清和大学、千葉科学大学、千葉経済大学、千葉工業大学、千葉商科大学、中央学院大学、東京情報大学、東京成徳大学、東京電機大学、東邦大学、東洋学園大学、二松學舎大学、日本大学、日本橋学館大学、明海大学、流通経済大学、麗澤大学、和洋女子大学(28大学)		
○学びの相談コーナー (大学入試センター) 13:00~16:30 高校生や保護者によるハートシステム体験、模擬授業担当の先生や現役大学生との質疑応答を行った。		

(4) 今後の取組の方向

このような新たなプログラムで行った結果、こういったセミナーが今後も必要であると多くの参加者が回答し、高等学校・大学関係者向けとして従来から行っていた特別講義も多くの高校生・保護者が聴講し、印象深かったという感想を残している。また、参加した高校生は大半が千葉県内の高等学校在学者であったが、隣接する都県等からの参加者も1割程度あった。学年別では、1・2年生の参加も多かった。高等学校学習指導要領において、新たに「総合的な学習の時間」が導入され、「進路について考察する」ことが学習活動として例示されている。学問に触れ、多くの大学の説明を聞き、自ら考えることは、この学習が期待しているものと深い関連を持ち得るものと考えられる。

こういったことなどを参考に、今後の進路指導関係セミナーの在り方を検討していきたい。

【注】

- \* 1 文部科学省「高等学校教育の改革に関する推進状況」(2004)
- \* 2 文部科学省調査(2004.3)
- \* 3 国立教育政策研究所 教育課程研究センター「教育課程実施状況調査」(2004.11実施)
- \* 4 文部科学省「大学における情報公開のための取組」(2001)
- \* 5 旺文社「蛍雪時代8月号」(2005.6.24現在)

【参考文献】

- 1) 中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)」(1999)
- 2) 大学入試センター年報
- 3) 大学入試フォーラム No.12(1991), No.15(1992), No.18(1994), No.23(1999) 大学入試センター
- 4) 勝野頼彦著(2004)「高大連携とは何か」学事出版

